

第1回目の「CNCPアワード2016受賞式」開催

シビルNPO連携プラットフォームは、10月31日に東京都新宿区の土木学会講堂で、ソーシャルビジネスの普及を目的として社会的課題の解決を図る優れた事業を表彰する「CNCPアワード2016」の受賞式典を開きました。優れたソーシャルビジネス事業を対象とした「ベスト・プラクティス部門」の最優秀賞は、NPO法人道普請人（みちぶしんびと）の「土のう工法の普及活動を通じた未舗装道路整備のインクルーシブビジネス化」、同部門優秀賞はNPO法人都市住宅とまちづくり研究会の「東日本大震災 宮城県東松島市あおい地区における防災集団移転等の支援活動」、優れたソーシャルビジネス事業企画を対象とした「ベスト・アイデア部門」の最優秀賞はNPO法人シビルサポートネットワークの「地方自治体のインフラの維持管理を支援する有限責任事業組合」で、各団体の代表者が表彰され、プレゼンテーションを行いました。



式典の冒頭、あいさつに立った山本卓朗CNCP代表理事は「建設も土木もその仕事自体が社会貢献であるが、これまで市民目線ではなく大きな立場でしか見てこれなかったという点で反省があり、そこが社会から建設への理解が深まらない要因でもあった。この賞はソーシャルビジネスを建設分野で理解してもらおうということが狙いだ。来年の第2回ではより広い分野でのエントリーがあることを期待している」と述べました。

続いて、選定委員を代表してソーシャルテクニカの田村裕美代表理事が各活動を講評し、道普請人の活動を「エントリーされた活動の多くは事業化の部分でまだまだ弱い中、現地で事業化している点を高く評価した」、都市住宅とまちづくり研究会の事例は「移転する前から協議会を立ち上げるなどコミュニティの持続を念頭に置き集団移転の支援をした点が素晴らしい」、シビルサポートネットワークについては「インフラの維持管理を担う技術者不足に対応するビジネスモデルだ」などと受賞の要因を述べました。

授与式では、道普請人の木村亮理事長、都市住宅とまちづくり研究会の杉山昇理事長、シビルサポートネットワークの高橋肇理事に、山本代表理事から表彰状と副賞が手渡されました。受賞者を代表して木村理事長は「2007年にNPO法人を設立して以来、約10年間活動してきたが、この賞を第一歩として今後さらに飛躍したい。横のつながりを築き、異なる分野のNPOのアイデアを取り込みながら全体的にレベルアップを図るのがCNCPの重要なポイントだ。他のNPOの模範となるようにさらに努力していきたい」と謝辞を述べました。

その後のプレゼンテーションでは各代表者が活動の概要について解説しました。道普請人の木村理事長は、「機械を使わずにどのようにしたら住民が自らの力で道直しができるのか」の基本コンセプトの下、ケニアの地方農村部の未舗装生活道路の整備を通して、市場や病院、学校などへのアクセスを確保し生計向上を図ることで貧困削減に貢献するなど事業の狙いを明かしました。都市住宅と

まちづくり研究会の杉山理事長は、東矢本駅北地区の新しいまちの名称を住民公募で決める際、名称検討委員会に中高生も採用したことなど、まちづくりでの工夫を説明しました。シビルサポートネットワークの高橋理事はインフラの維持管理の課題や現状を紹介した後、有限責任事業組合により、社会資本の戦略的な維持管理、更新が推進されるなどの効果を解説しました。式典の終了後は懇親会が開かれ、出席者が交流を深めました。



筆者：日刊建設通信新聞社 編集部 谷戸 雄紀